



循環型社会を実現するロジスティクスの構築

CGL JOURNAL II

個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる

Conference on Green Logistics in Japan — ロジスティクス環境会議

Contents

- Feature 1 ▶ 第2期ロジスティクス環境会議…………… 1
成果物紹介
- Feature 2 ▶ 第2期ロジスティクス環境会議…………… 3
第3回本会議報告
- Feature 3 ▶ グリーンロジスティクス講習会開催報告…… 10
- Feature 4 ▶ 第3期ロジスティクス環境会議について…… 10

VOLUME **2**

2008.5 Spring



Feature 1

第2期ロジスティクス環境会議 成果物紹介

2006年8月より活動を進めてきました第2期ロジスティクス環境会議の活動において、多くの成果物が作成されました。ここでは、これらの成果物の内容について、環境会議の活動の根幹となったグラウンドデザインにおける位置づけとともにご紹介いたします。つきましては、環境会議メンバーの皆様のみならず、皆様の関係会社の方等多くの方々にご活用いただき、ロジスティクス分野における環境負荷低減の一助としていただければ幸いです。

(なお、各成果物につきましては、ロジスティクス環境会議ホームページ (<http://www.logistics.or.jp/green/>) の「環境負荷低減活動支援ツール」に掲載しております。)

第2期成果物のグラウンドデザイン における位置づけ

第2期ロジスティクス環境会議の活動を通して作成された成果物をグラウンドデザインで整理すると、省資源ロジスティクス構築のためのツールと提案(①、②、③)、源流管理を進めるためのツール(④)、環境パフォーマンス評価(⑤、⑥)、全般にわたる事項(⑦、⑧)、行政などへの意見・要望(⑨、⑩)となっております(図1参照)。

各成果物の活用方法と内容について

鉄道へのモーダルシフトに取り組みたい/
さらに推進したい方は ➡

1 『CO₂削減推進委員会 活動成果報告書 第Ⅱ章 モーダルシフト』

鉄道へのモーダルシフト実施、もしくは拡大のためにクリアしなければならない課題(輸送枠、コスト、リードタイム、輸送品質、31ftコンテナ、取組の改善効果が表せない)を掲げるとともに、各課題に対する荷主等の対応事例を紹介している。

エコドライブに取り組みたい/
さらに推進したい方は ➡

2 『CO₂削減推進委員会 活動成果報告書 第Ⅲ章 エコドライブ推進ガイド —輸送事業者と発・着荷主の連携—』

エコドライブ推進のために、(i) 輸送事業者に加え、発・着荷主における役割を4つのPHASEで整理するとともに、それぞれのPHASEにおける活動項目例を整理、(ii) エコドライブ実践時に発生する課題とその対応事例(77事例)を紹介している。

取引条件の見直しに関心のある方は ➡

3 『取引条件を考慮した環境負荷低減施策に 関する提案 —加工食品をモデルとして—』

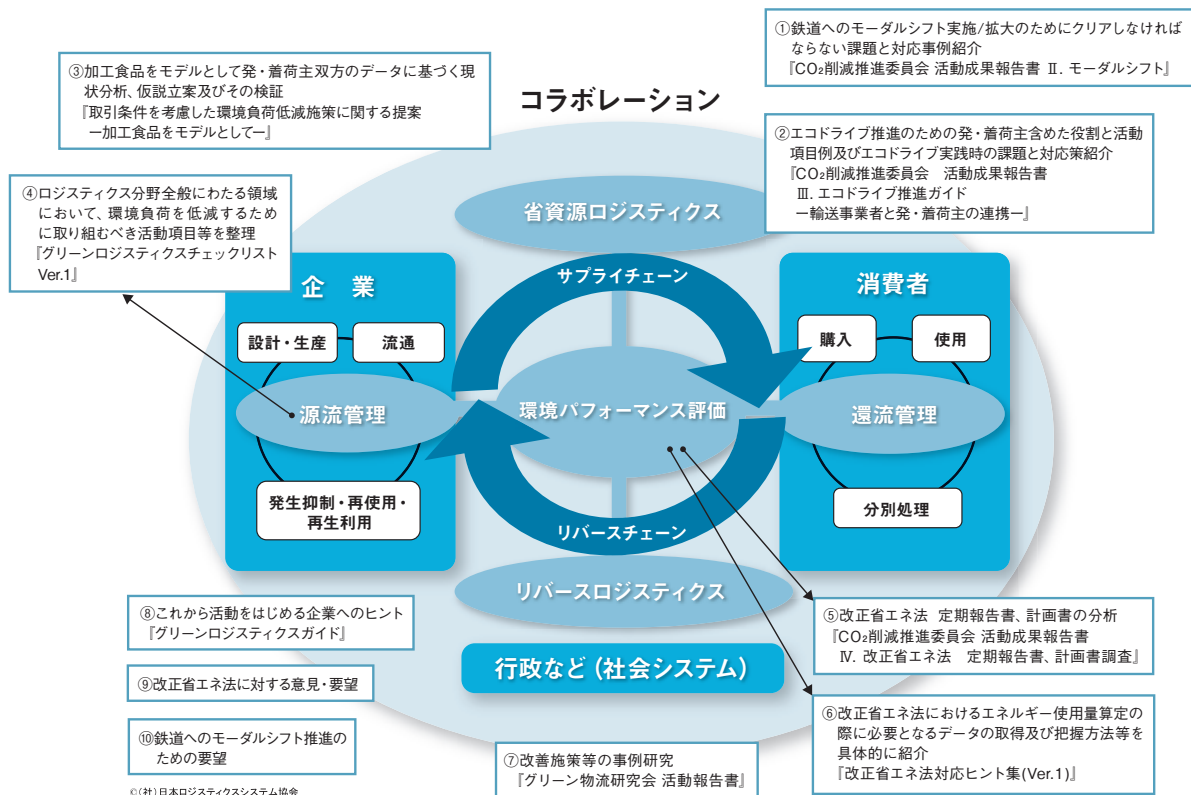
加工食品をモデルとして、(i) 発・着荷主双方のデータに基づく現状分析、(ii) 現状分析に基づき、環境負荷低減と取引条件の課題が解消する仮説の立案、(iii) 実データに基づく仮説検証を行い、その結果及び課題を整理している。

源流管理の視点も含め、ロジスティクス分野全般
における環境負荷低減に取り組みたい方は ➡

4 『グリーンロジスティクスチェックリストVer.1』

ロジスティクス分野全般にわたる領域について、環境負荷を低減するために取り組むべき活動項目として86項目を抽出・整理するとともに、(i) 各項目に実施度合い(実施レベル)の策定により、自社の

図1 循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザインと各成果物の位置づけ



©(社)日本ロジスティクスシステム協会

取り組み度合いが分かるような工夫、(ii) 各項目に、行政、関係団体、企業事例等の参考情報を掲載し、取り組む際のヒントとなる情報提供を行っている。

改正省エネ法の定期報告書、計画書の集計・分析結果を参照したい方は ➡

5 『CO₂削減推進委員会 活動成果報告書 第四章 改正省エネ法 定期報告書、計画書調査』

CGLメンバー企業より、2007年度の改正省エネ法の定期報告書、計画書を収集し、エネルギー使用量総量、使用した算定方法、トンキロ原単位の分布、省エネ計画等の集計・分析を行っている。

改正省エネ法に係る対応のヒントを知りたい方は ➡

6 『改正省エネ法対応ヒント集 (Ver.1)』

改正省エネ法の運輸分野に係る部分についての

対応のヒントとなる情報をまとめている。具体的には、(i) 運輸分野に係る措置の概要、(ii) 特定荷主に義務付けられているエネルギー使用量の算定に関する概要、(iii) 輸送に係るエネルギー使用量削減のための留意ポイントを紹介している。

実践的な環境負荷低減活動の事例を知りたい方は ➡

7 『グリーン物流研究会 活動報告書』

環境負荷を軽減する活動を推進するため、改善施策の事例等の情報収集や現場視察を通じて、実践的な改善施策の研究を行っている「グリーン物流研究会」の活動報告。(報告書は環境会議メンバーのみ配布し、ホームページでの公開は行っておりませんが、下記ブログにて各会合の概要等の情報を掲載しております。)

<http://plaza.rkuten.co.jp/greenlogistics/>

これから環境負荷低減活動に 取り組みたい方は ➡

8 『グリーンロジスティクスガイド』

これから環境負荷低減活動に取り組もうと考えている企業を主対象として、環境負荷低減活動への理解を深め、活動に取り組んでいただくためのヒントとなる情報を紹介している。



(主な内容)

- 定期報告書、計画書の集計・分析内容の公表
- 原単位の設定
- 混載便の算定
- 定期報告書、計画書のフォーマットの変更等
- 阻害要因等についての関係省庁への伝達
- 表彰制度の構築 / 優秀事例の周知
- 着荷主にかかわる実態把握 / 取引条件を見直した事例の積極的周知、公表

10 『鉄道へのモーダルシフト推進のための要望』

鉄道へのモーダルシフト推進のために、JR貨物及び関係行政機関に実施していただきたい事項を整理し、要望書として取りまとめている。

行政などへの意見・要望 ➡

9 『改正省エネ法に対する意見・要望』

改正省エネ法におけるエネルギー使用量の算定や定期報告書、計画書の策定等を企業側がよりスムーズに執り行えるように、関係行政機関に実施していただきたい事項を意見・要望として取りまとめている。

(主な内容)

- 輸送枠の有効利用及び拡大について
- コストについて
- リードタイムについて
- 品質について
- 鉄道貨物駅について
- エネルギー使用量の算定について



Feature 2

第2期ロジスティクス環境会議 第3回本会議報告

第2期ロジスティクス環境会議の最後の活動となる第3回本会議が3月11日(火)にホテルニューオータニ(東京・千代田区)で開催されました。当日は、三村明夫議長(JILS会長・新日本製鐵(株) 代表取締役社長)、岡部正彦副議長(JILS副会長・日本通運(株) 代表取締役会長)をはじめとした総勢104名の出席のもと、下記議事についての報告及び承認がなされました。

1 活動報告について

(1) 研究会、各委員会の活動成果について (2) 普及活動及び情報提供活動について

2 第2期活動の総括について

3 2007年度収支決算(案)について

4 第3期活動について

ここでは、同会議の内容についてご紹介いたします。

..... *役職等は開催時点のもの

開会挨拶——三村議長挨拶

第2期ロジスティクス環境会議は、2006年8月2日の第1回本会議より活動を開始し、本日の第3回本会議をもって、第2期の活動を無事終了することとなりました。

「循環型社会を実現するロジスティクスの構築」というグランドデザインの達成に向けて、「ロジスティクス環境宣言」の実践に必要な様々な活動を進めていただいた各委員会の委員長、研究会の幹事をはじめ、メンバーの皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

現在、最も深刻な環境問題の一つとして、「地球温暖化問題」があげられます。二酸化炭素等の温室効果ガスの増加により、異常気象の増加、生態系の危機等、様々な影響が地球規模で発生していることを実感いたしております。この危機を回避するための第1歩として、本年より第1約束期間開始となりました京都議定書の国際公約遵守が重要となりますが、我が国における温室効果ガス排出量は、2006年度速報値で13億4,100万トンと、基準年比6.4%増加している状況となっており、二酸化炭素排出量の約2割を占める運輸分野としても、より一層の取り組みが必要だと考えます。

企業がロジスティクス分野において、環境対応を進める際には、製品ライフサイクルの視点でサプライチェーンとリバースチェーンを最適化するロジスティクスの構築が不可欠であります。それを実現するためには、荷主企業と物流企業、あるいは発荷主企業と着荷主企業の連携による横断的な取り組みが求められます。

その意味で、業種、業界を越えた多数の方々にご参画いただいた環境会議において、二酸化炭素を中心とする環境負荷の低減に向けた検討を重ねたことは、たいへん意義のあることであります。

本日は、委員会、研究会より、活動の成果をご発表いただきます。環境会議のメンバーの皆様におかれましては、自社における取り組みに今回の成果を積極的にご活用いただければ幸いです。

また、今後とも、この環境会議を通して、産業界、学界、行政、関連団体等の方々と目標、課題を共有し、連携を深めながら、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に向けた活動を推進していただければ幸いです。

最後になり恐縮ですが、業務多忙の折、オブザーバーとして御参加いただきました関係各省の皆様方に御礼申しあげ、簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。



経過報告——事務局

第2期ロジスティクス環境会議では、「循環型社会を実現するロジスティクスの構築」というロジスティクス・グランドデザイン（図2）の達成に向けて、「ロジスティクス環境宣言」（図3）の実践に必要な活動を推進してきました。

具体的には、図4の組織体制の通り、研究会、委員会を設置し、活動を進めました。

図3 ロジスティクス環境宣言



社団法人日本ロジスティクスシステム協会
ロジスティクス環境会議

- 活動を通して明らかになった課題については、企業・行政・団体等の関係者へ情報発信を行い、循環型社会の形成に寄与する。

委員長：山本 明弘
 株式会社総合研究所 物流技術環境部長 兼 環境グループ担当部長
 副委員長：矢野 裕兒
 流通経済大学 流通情報学部 教授
 副委員長：恒吉 正浩
 味の素(株) 食品カンパニー 物流企画部 企画グループ長
 副委員長：菅田 勝
 リコーロジスティクス(株) 経営管理本部 副本部長
 (株式会社ロジスティクス 取締役)

5 CGL JOURNAL II

研究会、各委員会の活動報告

グリーン物流研究会

1. 活動方針

環境負荷を軽減する活動を推進するため、改善施策の事例等の情報収集や現場視察を通じて、実践的な改善施策を研究する。

2. 2007年度活動内容

研究会の活動

以下の活動を実施した。

第6回研究会—2007年5月30日(水)

テーマ：イノベーションとグリーン物流

第7回研究会—2007年6月28日(木)

テーマ：包装資材削減

第8回研究会—2007年7月26日(木)

テーマ：グリーン物流パートナーシップ推進事業

第9回研究会—2007年10月16日(火)

テーマ：現場見学（日本通運(株) RORO船見学）

第10回研究会—2007年10月25日(木)

テーマ：現場改善とグリーン物流

第11回研究会—2007年11月29日(木)

テーマ：改正自動車NOx・PM法と改正省エネ法

第12回研究会—2007年12月7日(金)

テーマ：現場見学（セイコーエプソン(株)リサイクル施設見学）

第13回研究会—2008年1月24日(木)

テーマ：静脈物流共同化と環境会議分科会報告

*2006年度含めて、計13回で延べ660人が参加（1回あたり平均51名）

*講師、パネリスト 延べ40人以上

その他

1. アンケートの実施

現場見学を除く各会合終了時及び総括アンケートの実施

2. ブログの開設



<http://plaza.rakuten.co.jp/greenlogistics/>

3. 活動成果

『2007年度 グリーン物流研究会 活動報告書』

4. 今後の課題等

- 研究テーマの積み残し
- 人的ネットワーク形成に向けた運営上の工夫

CO₂削減推進委員会

1. 活動方針

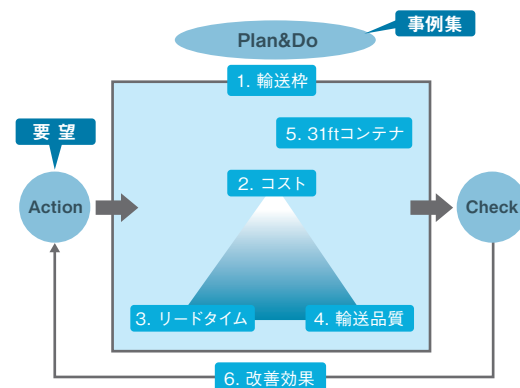
各企業のCO₂削減を推進するため、改正省エネ法等の関連法制度への対応も踏まえ、荷主企業と物流企業とのパートナーシップによる継続的な改善活動を推進するうえでの問題点、課題を整理し、解決策を検討する。さらに必要に応じて、行政、団体等の関係者へ提言を行う。

2. 2007年度活動内容

モーダルシフトWG

- (1) 検討対象の絞り込み
WGメンバーを対象にアンケート調査を実施し、「鉄道」を対象に検討を進める。
- (2) 鉄道へのモーダルシフトの問題点整理
6つの項目を整理（図5参照）

図5 鉄道利用上の問題点と成果物の対応



- (3) 対応事例の収集
メンバーの取組事例を整理し、「事例集」を作成
- (4) 対応方向の提案
「要望書」の作成

燃費向上WG

- (1) 検討対象の絞り込み
WGメンバーを対象にアンケート調査を実施し、「エコドライブ」を検討テーマとする。
- (2) 「エコドライブ実施時の課題と解決事例」調査
委員会メンバーより77事例収集
- (3) 役割整理図等の作成

エコドライブ推進のために、輸送事業者に加えて、発・着荷主の役割とその活動項目例を整理（表1参照）

表1 各主体の役割概要

PHASE	名称	主な実施主体			
		輸送事業者 元請事業者	協力会社	発荷主	着荷主
PHASE I	自社におけるエコドライブ活動	○	○		
PHASE II	発荷主、元請事業者、協力会社のコミュニケーションの確立によるエコドライブ推進	○		○	
PHASE III	着荷主の調達段階におけるエコドライブへの配慮				○
PHASE IV	エコドライブのさらなる推進に向けた4者による取組項目	○	○	○	○

委員会

- (1) 定期報告書、計画書の収集、分析
CGLメンバーから、2007年度の省エネ法の定期報告書、計画書を収集・分析し、エネルギー使用量総量、使用した算定方法、トンキロ原単位の分布、省エネ計画等の集計・分析を実施
- (2) 意見・要望の検討
省エネ法に対する課題をCGLメンバーから収集し、それらを元に、関係行政機関に対する意見・要望の作成

3. 活動成果

『CO₂削減推進委員会 活動成果報告書』

4. 今後の課題等

- 成果の普及及び要望内容のフォロー
- ドアtoドアでのCO₂排出量削減（荷役や保管/輸送包装）
- リードタイムや輸送ロットなどの物流条件がCO₂排出量に与える影響の評価
- CO₂排出量の帰属問題



グリーンサプライチェーン推進委員会

活動方針

製品の企画、設計等の源流段階から調達、生産、販売、回収等の物流プロセスの環境負荷を低減するため、荷主企業と物流企業間で問題、課題を共有し、解決の方策を検討する。さらに必要に応じて、行政、団体等の関係者へ提言を行う。

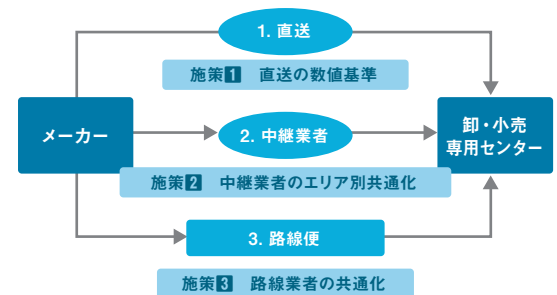
→ 具体的には、下記2つの分科会を設置し検討を進める。

取引条件分科会

1. 2007年度活動内容

- (1) 加工食品メーカー→卸間の物流フロー確認
取引関係にある発・着荷主双方の実データにより、物流フローの確認
- (2) 共同配送推進案検討
環境負荷低減と取引条件の課題が解決すると考えられる中継物流の共同化を含めた仮説立案
- (3) 仮説検証
原データをベースにシミュレーションを実施し、仮説の検討を実施
- (4) 実施にあたっての課題確認
実現にあたって大きな課題は存在しないと考えられることを確認（図6参照）

図6 メーカー→卸間の物流フローと施策案



- (5) 今後の方向性の整理
共同配送を実施しても課題として残る「取引条件」の確認

2. 活動成果

『取引条件を考慮した環境負荷低減施策に関する提案—加工食品をモデルとして—』

3. 今後の課題

- （本施策実施によっても解消しない）リードタイムの緩和による環境負荷への影響等の調査
- 本施策の実践に向けた発荷主間、発着荷主間での情報交換等

源流管理分科会

1. 2007年度活動内容

- (1) チェック項目の策定
ロジスティクス全般にわたる活動項目を網羅した全86項目策定
(環境方針展開、組織体制構築から、物流部門にとって身近な活動項目、さらに他部門、取引先との連携を意識した項目を策定)
- (2) 実施度合い(実施レベル)の作成
86項目それぞれに対して4段階の実施度合い(実施レベル)を策定し、回答の容易性とともに関答することより自社取組度合いの把握が可能な構成
- (3) 参考情報の掲載
活動を進めるにあたって参考となる、行政、関係団体、企業事例等の情報の掲載

表2 チェック項目の例

No	チェック項目			
1	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。			
実施度合い				
1. 出来ていない	2. 遅れ気味で努力不足	3. まずまず出来ている	4. よく出来ている	
企業の環境方針、行動計画等を策定していない。	企業の環境方針、行動計画等を策定しているが、トップのコミットメントがない、もしくはコミットメントの有無が不明である。	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。	左記に加え、企業の環境方針については、社内のみならず社外へ積極的に公表している。	
参考情報、関連団体等				
トラック運送事業におけるグリーン経営認証マニュアル（交通エコロジー・モビリティ財団） http://www.ecomo.or.jp/topix/green_management_manual_truck_mokuji.pdf				

2. 活動成果

『グリーンロジスティクスチェックリストver.1』

3. 今後の課題等

- ・環境会議メンバーを中心とした調査実施及び調査結果の公表等を通じた普及啓発活動の実施
- ・グリーン物流パートナーシップ会議等でのオンライン化及び普及
- ・調査等を受けての内容の充実化

普及活動について

1. 2007年度活動内容

- (1) 「グリーンロジスティクスガイド」の作成
ロジスティクス環境宣言第2項の実践に向けて、これから環境負荷低減活動に取り組もうと考えている企業を主対象として、環境負荷低減活動への理解を深め、活動に取り組んでいただくためのヒントとなる情報提供を目的として、作成した。

*なお、本ガイド作成にあたっては、企画運営委員をメンバーとする「環境負荷低減活動推進のための手引き検討WG」を設置し、検討を行った。

- (2) 配布等
 - ・配布総数：1,317名、メールによる案内総数：2,668件(2008年3月4日現在)
 - ・グリーンロジスティクスガイドホームページの作成
http://www.logistics.or.jp/green/report/08greenguide_00.html
- (3) 会員研究会の開催
グリーンロジスティクスガイドの内容の紹介も兼ねた会員研究会を下記のとおり開催した。
 - ▶ タイトル— 今日から始める「グリーンロジスティクスのすすめ」～環境負荷低減とコスト削減の実現に向けて～
 - ▶ 講師— 下村 博史 氏
ロジスティクス環境会議 企画運営委員、グリーン物流研究会 幹事(株)日本総合研究所 研究事業本部 首席主任研究員)
 - ▶ 開催概要
 - ① 福岡開催—2008年3月5日(水)
 - ② 東京開催—2008年3月12日(水)
 - ③ 大阪開催—2008年3月19日(水)
 - ④ 名古屋開催—2008年3月25日(火)

2. 今後の活動

第2期成果物を掲載した第2版の発行(2008年4月)

情報提供活動について

1. 2007年度活動内容

「CGLニュース」と「CGLジャーナル」による情報発信
研究会、委員会の活動経過、各種催事、行政動向等について以下のような情報発信を行った。

- (1) CGLニュース(電子メール)
速報的内容として、18回発信
- (2) CGLジャーナル(冊子)
各委員会の活動状況等を集約し、1回発行
2007年度は第2号発行(本誌)



- (3)「グリーンロジスティクスガイド」の発行（前述）

イベントの実施（講習会等）

環境会議全メンバーを対象に、委員会の活動成果等に関する情報発信、もしくは研究会、委員会ではとりあげていないテーマに関する情報提供等を目的に実施

- (1) グリーンロジスティクス講習会の開催
(2007年11月20日(火)、97名参加)

*詳細はP10を参照

- (2) 会員研究会の開催（前述）

第2期活動の総括

1. 第2期活動の概要

- (1) 目的
循環型社会を実現するロジスティクスの構築
～個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる～
- (2) 方針
循環型社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、産官学、発荷主・着荷主・物流事業者間の連携のもと、第1期の活動成果を活用し、ロジスティクス領域の環境負荷低減活動を推進する。さらに、改正省エネルギー法、地球温暖化対策推進法等にも対応し、物流分野におけるCO₂等の環境負荷低減活動を積極的に推進する。
- (3) 目標
循環型社会の実現に向けて、物流分野の環境負荷低減を経営の重要課題として認識し、委員会ならびに研究会の活動を通じて、ロジスティクス環境宣言(2006年3月15日採択)の実現を目指す。

2. 第2期活動の実績

物流分野におけるCO₂削減に焦点をあてた活動の推進 (環境宣言第1項実現に向けた取り組み)

下記を中心に、第2期の活動方針である「物流分野におけるCO₂削減」に焦点をあてた活動の推進

(主な成果)

- ・モーダルシフト推進に向けた事例集/要望書
- ・エコドライブ推進ガイドー輸送事業者と発・着荷主の連携ー
- ・取引条件を考慮した環境負荷低減施策の提案
- ・グリーン物流研究会による改善施策の研究

「取り組む企業を増やす」ための活動の展開

(環境宣言第2項実現に向けた取り組み)

これから取り組みをはじめようとする企業を主な対象とした成果物の作成

(主な成果)

- ・グリーンロジスティクスガイド
- ・グリーンロジスティクスチェックリスト

「循環型社会の形成に向けた情報発信」の実践

(環境宣言第3項実現に向けた取り組み)

行政及び関係企業に対する意見・要望を策定

(主な成果)

- ・改正省エネ法に対する意見・要望
- ・モーダルシフト推進に対する要望

参加メンバーの連携による活動の推進

第1期に引き続き、研究会、委員会ともに発荷主企業、着荷主企業、物流事業者間の連携による活動を進めた。



3. 第2期活動を終えての課題

- (1) 普及活動のさらなる推進
前述のとおり、「グリーンロジスティクスガイド」を含めた成果物を作成してきたが、それらの普及活動については、第2期の活動としては十分とは言えるものではなかった。
そこで、第3期では、第1、2期成果物の普及活動を展開し、環境負荷低減活動に取り組む企業を増やす活動をより一層進める必要がある。
- (2) 各委員会での積み残し課題
各委員会ともに、いくつか積み残しの課題がある。今後、第3期における検討テーマの設定の際に、それらを考慮する必要がある。
- (3) 人的ネットワークの構築
環境会議では、「異業種、異なる立場のメンバー参加による人的ネットワークの構築」を特徴の1つとしているが、登録メンバー数の多い組織体を中心に、人的ネットワークの構築のみならず、その前段階である人的交流も不十分なところがあった。第3期においては、運営上の工夫により、これらを少しでも改善する必要がある。

4. 総括

「循環型社会を実現するロジスティクスの構築」というグランドデザインの達成に向けて、「ロジスティクス環境宣言」の実践に必要なツールの整備等を中心に、様々な活動を推進した。

第3期については、第1、2期の成果の普及等により、環境負荷低減活動に取り組む企業を増やす活動を推進したい。



Feature 3

グリーンロジスティクス 講習会開催報告

京都議定書における我が国の国際公約達成に向けて、物流分野においても、省エネ法の改正やグリーン物流パートナーシップ会議の設置等、各種行政施策が推進されています。さらに、ポスト京都議定書に向けた動きも進んでおり、それらは物流分野においてもさらに影響を与えることが想定されます。

このような状況の中、各企業におけるグリーンロジスティクスの更なる推進に向けては、ハード、ソフト両面で様々な対策が考えられます。そこで今回、「連携」、「開発」、「共同化」をグリーンロジスティクス推進のためのキーワードとして捉え、それぞれのキーワードに合致する先進事例をご紹介いただくことにより、企業の環境負荷低減の一助としていただくことを目的として、「グリーンロジスティクス講習会」を2007年11月20日(火)に開催し、環境会議メンバーを中心に97名の方が参加されました。



講演① <連携>

「連携（パートナーシップ）に着目したグリーン物流への取り組み」

明治乳業(株) 物流部 係長 桜井 保 氏

講演② <開発>

「段積み用輸送・保管共用治具開発によるモーダルシフトの拡大と包装削減への取り組み」

(株)日立産機システム 事業統括本部 生産革新センタ 生産改革グループ 主任技師（ロジスティクス担当） 吉川 謙二 氏

(株)日立物流 グローバル営業開発本部 家電・産機システム部 主任 染谷 健一 氏

講演③ <共同化>

「グリーン物流で生き残れ 一東海北陸自動車道全線開通に向けての取り組み紹介」

若松梱包運輸倉庫(株) 代表取締役専務 若松 道行 氏

..... * 役職等は開催時点のもの



Feature 4

第3期ロジスティクス環境会議 について

JILSでは、ロジスティクス分野における環境負荷低減をさらに積極的に推進するために、第2期活動の総括（P9参照）を踏まえ、第3期ロジスティクス環境会議の活動に取り組みます。

（第3期活動のイメージ）

- ・ 第1、2期の成果の普及等による、環境負荷低減活動に取り組む企業を増やす活動の推進
- ・ 第2期の積み残し課題、もしくは未着手領域を中心としたテーマ設定、および当該テーマに関する発荷主企業、着荷主企業、物流企業の連携による検討の実施

1 概要

- (1) 名称
第3期 ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan
(CGL in Japan)
- (2) 目的
持続可能社会を実現するロジスティクスの構築
～個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる～
- (3) 期間
2008年5月～2010年3月(2年)
- (4) 参加対象
(社)日本ロジスティクスシステム協会(JILS)の会員(ロジスティクス分野における環境負荷低減活動を実践していきたいと考えている、製造業、流通業、物流事業者、情報サービス業、調査・研究機関、自治体等の方々)

2 活動計画

第2期と同様に研究会、委員会を設置し活動を進めます。

- (1) グリーン物流研究会
ロジスティクス分野における環境負荷低減活動を推進するため、参加メンバー等からグリーン物流の各種施策の実施事例等の情報提供等を通じて、実践的な改善施策の研究を行います。
- (2) 委員会
ロジスティクス分野における環境負荷低減活動を推進するうえで、発荷主企業、着荷主企業、物流企業間で課題を整理し、課題の解決方策の検討や有用となるマニュアル等の作成を行う。さらに、必要に応じて、企業、行政、団体等の関係者への提言を行います。

<第3期委員会テーマ案>

- ・グリーン物流推進のための取引条件検討委員会(仮称)
 - ・リバースロジスティクス推進委員会(仮称)
 - ・包装・梱包材削減・適正化推進委員会(仮称)
 - ・環境負荷低減のためのシステム機器等に関する検討委員会(仮称)
- *第3期申込メンバーに対し、希望調査を実施し(2008年3月～4月)、その結果に基づき、委員会を2つ設置いたします。
- (3) ワーキング(WG)
特定のテーマに関して検討を行います。

<第3期実施テーマ例>

- ・持続可能社会実現に向けたロジスティクス・グラウンドデザインの改訂
 - ・グリーンロジスティクスチェックリスト調査
 - ・CO₂の帰属に関する検討
- *ワーキングについては、原則として事務局でメンバーを選定いたします。
- (4) 情報提供活動の実施
- ・シンポジウムや講演会等のイベントの開催
 - ・媒体(冊子、メールマガジン)を通じた情報提供の実施

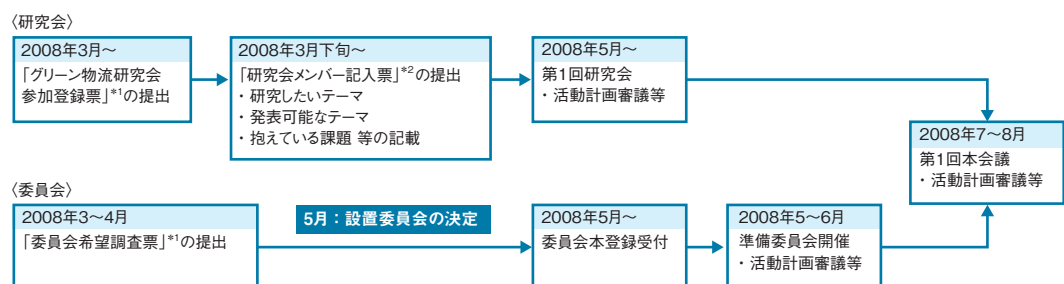
3 今後のスケジュール(図7参照)

最終申込締切:2008年7月31日(木)

*第1回グリーン物流研究会からの参加を希望される方は2008年5月14日(水)までにお申し込み下さい。詳細につきましては、第3期ロジスティクス環境会議参加募集パンフレットをご参照下さい。

http://www.logistics.or.jp/green/info/pdf/3rd_cgl.pdf

図7 申込後のスケジュール



*1 「グリーン研究会参加登録票」及び「委員会希望調査票」は、第3期ロジスティクス環境会議 参加募集パンフレットにございます。
*2 「研究会メンバー記入票」は、ご登録いただいた方に事務局よりメールでお送りいたします。

CGLジャーナルⅡ 第2号 2008年5月1日発行

発行人 徳田 雅人
編集人 橋爪 茂久
発行所 社団法人 日本ロジスティクスシステム協会
ロジスティクス環境推進センター
〒105-0014 東京都港区芝2-28-8 芝二丁目ビル3階
Tel. 03-5484-4021 Fax. 03-5484-4031
e-mail cgl@logistics.or.jp URL <http://www.logistics.or.jp/green/>
印刷 株式会社エデュプレス